



農の未来ネット

NO.23

特定非営利活動（NPO）法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620）

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

点につきましても御理解・御協力をよろしくお願いします。

**農の未来ネット新事業
始動へ！！
「みらい体験農場」(仮称)
での農作業参加の呼びかけ**

「みらい体験農場」(仮称)農場長

一之瀬今朝一

NPO 法人農の未来ネットでは、農業体験ができ、耕作放棄地を食い止めることを目的に、体験農場を地元農家の細田氏の御協力により開くこととしました。

場所は、さいたま市西区中釘（JR川越線「西大宮」又は「指扇」から北へ2Km程度、上尾市との市境に近い。）の25a水田です。

当面の作業は、耕耘（4月中旬）、種まき（4月中旬、品種：彩のひかり、播種箱）、代かき（5月中旬）、畦付け（5月中旬）、田植え（5月中旬～下旬、田植機）等を行うこととしています。

今後は、ホームページ上に「農場実習だより」として各作業について詳しく書き込みますので、作業の参加・支援方よろしくをお願いします。

なお、作業の参加・支援（交通費等）は、各自の手弁当とさせていただきますので、この



【写真】「みらい体験農場」予定圃場



あぐ・ほら事業

初の農業体験をした農大生

田中大介さん(21歳)

「農の未来ネット」編集長

西村正昭

東京農大の田中大介さん（21歳）は3月4日から11日まで埼玉産直センターのネギ農家の吉岡信一さんのところで農業体験をしました。田中さんは昨年12月に農の未来ネットが開いたインターンシップ（農業体験説明会）に参加して、吉岡さんのところで春休みを利用して農業体験をす

ることになったのです。農の未来ネットでは初めて学生の農業体験を実現させることができました。

みぞれまじりの寒い3月7日、埼玉県の吉岡さんの家に田沼繁事務局長と一緒に田中さんを訪ねました。吉岡さんと田中さん、それに農の未来ネットの理事の吉田道行さんも私たちを迎えてくれました。

田中さんは、吉岡さんの家に宿泊しながらネギの栽培・収穫から水洗い、出荷の一貫した作業を吉岡さんの教えをうけながら農作業を体験しました。高校生の時に野球部にいたこともあって体力もあり、農作業を苦にもせず積極的にこなしているようです。吉岡さんとも気心がわかりあえ、何でも話し合うことができているようです。

田中さんの実家は千葉県船橋市で小松菜や枝豆を作る農家で、農大卒業後、就農します。「吉岡さんは先のことを見据えて農作業や収穫時期を考えているのを知り、学ぶことができました。うちの親父と吉岡さんは同じ年代です。親父が何を考えているのかが、吉岡さんと話をしているいろいろとわかりました」と語る田中さん。夏休みなどにも再度、吉岡さんのところで農業体験したいと思っています。

吉岡さんは「息子は10代であるが、10年後に田中君の家に息子を勉強させにいかせるようになるといいな。お互いに交流し合い、後継者をつくりあげる場所ができればいいよな」と、農業体験者を受け入れ、後継者を育てていきたいという思いを持っています。田中さんと吉岡さんの様子を見てみると、楽しそうな雰囲気伝わってきました。アグリ・ボラバイト事業が地についたものになっていくような思いを強くしました。



[写真]小ネギを洗う作業をする田中大介さん

編集後記

東日本大震災が3月11日午後2時46分に発生、宮城県、岩手県、福島県を中心に大きな被害を与え、多数の死亡者・行方不明者の犠牲をもたらしています。全力で捜索活動や行方不明者の活動が行われています。テレビでの報道を見ていると涙なくして正視できない悲惨な現場が次々に映し出され、いてもたってもいられない心情に襲われます。私は1995年1月17日の阪神・淡路大震災の発生後、数日あとに現場に取材をかねて救援に入った当時の生々しい体験がよみがえってきました。被災者の実態の映像には胸を押しつぶされる思いにかられます。そんな中でも9日ぶりに救出された祖母とお孫さんの姿をテレビで見てうれし涙があふれてきました。行方不明の家族の安否を思いながら苦しい避難生活を送られている方々、それを支えるために全力で取り組んでいる救援者をはじめ全国からの暖かい援助で一日も早く、安心した生活を過ごせる手立てと復興を願わずにはおれません。それと大震災による東電の福島原発の事故は、放射能の被害を防ぐために20キロから30キロの住民を避難させ、二重の被害をもたらしています。原発の「安全神話」が崩れました。世界中から福島原発事故の処理が注視されています。東電地域に住む人たちは「計画停電」なるもので停電を余儀なくされ、そのうえお米や水、納豆、豆腐、うどん、ラーメンなどの食料品から懐中電灯や乾電池がスーパーから消え、ガソリンも不足となり、日常生活がパニック状態に陥っている日も何日も続いています。福島原発事故で基準値以上の放射能が検出されたというハウレン草や原乳が出荷ストップされるという農民にも大きな被害をもたらしています。「1000年に一度」の大震災といわれますが、被災者を救済し、将来も安心して暮らせるよう政府が最大限の対策を行うことを要望します。私も被災者の救済に力を尽くします。

(西村)